

佐々木 玲奈
早稲田大学社会科学部
東京、日本
10月5日～1月18日

序論

私は再生可能エネルギーが持続可能な都市計画においてどれほど重要な役割を果たすのかについて興味を持ち、その理解を深める為に2023年10月にISEPのインターンシップに参加しました。

この4ヶ月間のインターンシップは、とても貴重な経験であり、学生として最も思い出に残るものとなりました。また、ISEPで得た知識や経験を将来のキャリアに活かすことが出来ると思います。山下さんは非常に尊敬できるメンターで、いつも丁寧にご指導を頂き、本当に感謝しています。

ISEPでの主な作業内容

ISEPのインターンとして、私はエネルギー産業について様々な学術分野を研究する機会に恵まれました。この作業はとても興味深く有益なものでした。

私の主なプロジェクトの一つは、太陽エネルギー施設と生物多様性の関係に焦点を当てたものでした。私は、太陽光発電施設をより持続可能なものに改善する方法と、それが生物多様性を傷つけるのではなく、むしろ生物多様性を助ける方法について様々なケーススタディを調べ、データを収集しました。その後、それらの情報を基にプレゼンテーションを行い、現在進行中の問題に対する可能な対応策や解決策を検討しました。

これに加え、私は他のISEPインターンと共に、環境法の比較に焦点を当てたプロジェクトにも取り組みました。このプロジェクトでは、主に日本とドイツの環境法を調査しました。この作業から私は各国の現在の持続可能な開発目標について、どのように規制が進化し続けているかより理解を深めることができました。

もう一つ印象的なプロジェクトは、ISEPのスタッフ数名と一緒に取り組んだ自家消費型太陽光発電に関する研究です。通常、私のISEPでの仕事は英語を使用しますが、バイリンガルということで日本語でのプロジェクトにも参加することが出来ました。私は、日本の地方自治体が各地域にどのように自家消費型太陽光発電を実施したいと考えているのか、その情報を収集すると共に、政府関係者のヒアリングにも出席するという体験を得ることが出来ました。

私の関わったプロジェクトの多くは、持続可能性やエネルギーに関連する様々な分野でしたが、このような多岐にわたるリサーチによって、異なる環境で経験を積むことが出来たことは非常に有益だったと思います。

ISEPで得られる経験

研究プロジェクトに加え、ISEPのインターンとして、様々なイベントや企画に参加することが可能であり、貴重な経験を得ることが出来ます。例えば、インターンシップが始まった頃、数名のインターンと私は野辺山の営農型太陽光発電所を訪ねました。このフィールドワー

クでは、再生可能エネルギーと地域開発の関係についてより深い理解を得ることができ、非常に魅力的な経験だと感じました。

東京に戻ってからは、地元の小学校を訪問し、日本の再生可能エネルギーに関する現在の政策についてプレゼンテーションを行いました。また、生徒たちとディスカッションを行い、エネルギー政策についての彼らの意見を聞くなど有意義な時間を過ごしました。

そして、インターンシップ最後の数週間に、私たちインターンは国会を訪問する機会に恵まれ、環境業界の専門家や政府関係者と共に会議に参加することができました。とても刺激的で、日本の環境政策についてさらに理解を深めることができました。このような経験は、自分の研究や学びをより深く追求することにも繋がりました。

結論

ISEP でのインターンシップによって、私は他国の再生可能エネルギー政策と開発について様々な視点で見ることが出来るようになったと感じています。そして学生として、このような経験や知識は私の進路に良い影響を与えていると思います。今後、大学院に進学し、学問分野にエネルギー研究を取り入れたいと考えています。

社会科学が専攻なので環境・エネルギー政策に関する予備知識はありましたが、今回のインターンシップでは、再生可能エネルギーの科学的メカニズムも学ぶことができました。さらに、ISEP のインターンやスタッフのバックグラウンドが多様であるため、様々な議論を積極的に行う機会が多くあり、エネルギー政策と様々な学問分野との関係についてもさらに学ぶことができました。私はこのインターンシップに参加させて頂くことが出来て、とても感謝しています。ISEP の環境は、インターンが自分の興味がある分野について研究しながら、同時に自分の考えにチャレンジする機会も与えられています。この環境によって専門的なスキルや洞察の向上が実現されていると感じました。

ありがとうございました！